

次期都市マスタープラン基本理念（案） 説明文

1 本市は、古くから九州各地を結ぶ交通の要衝として栄え、九州の中核を
2 成す拠点都市として発展してきました。また、人口増加や高度経済成長を
3 背景に、暮らしやすいまちを形成しつつ、地域経済をけん引してきました。
4 産業や経済、文化の振興を図り、市民生活の質と利便性を向上させるとと
5 もに、国内外の幅広い地域とつながる交流拠点都市となることを目指し
6 ています。

7
8 一方で、人口減少や超高齢社会の急激な進行、気候変動による水害や巨
9 大地震発生のおそれなど、懸念となる状況も出てきています。さらに、半
10 導体関連企業の進出やインバウンド需要の増加、デジタル利用をはじめ
11 とするライフスタイルの変化など、本市を取り巻く情勢は大きく変わり
12 つつあり、これらに対応した都市づくりが求められています。

13
14 そこで、本市では、これまでの人口増を前提とした都市づくりから、「成
15 熟した持続可能な都市づくり」への転換を図ります。地域がこれまで蓄積
16 し保有してきた資源や、投資により構築された既存ストックを最大限に
17 活用しつつ、都市空間を再構築し、市民生活の質と都市の価値を向上させ
18 ていきます。防災力が高く、環境負荷は低く、国内外との交流と情報化が
19 進んだ都市空間です。

20 そのために、居住や都市機能を集積し、公共交通を主軸とした暮らしや
21 すく効率的な都市構造を構築します。そのうえで、中心市街地や地域拠点
22 を中心に、賑わい創出と良好な景観形成等を図り、魅力と活力のある都市
23 空間をつくります。対外的には、広域交通ネットワークを強化し、ビジネ
24 ス・観光など、国内外からの多様な交流を促進するとともに、産業の振興
25 を図ります。また、本市が誇る豊かな自然や、歴史と伝統に育まれてきた
26 地域の文化や産業、優れた景観等を守り育て、次世代に継承していきます。
27 頻発・激甚化すると予想される自然災害に対しては、防災体制や都市基盤
28 を強化し、インフラ施設を適正に管理して、都市が持つ防災機能を高めて
29 いきます。

30
31 まちづくりの原点は「地域」、そして、そこに暮らす「市民」です。本
32 市は、地域の特性を活かしつつ、市民との協働により、まとまりのあるコ
33 ンパクトな都市的空間と、豊かな自然や歴史・文化の調和を図り、誰もが
34 暮らしやすい、持続可能な「多核連携都市」を実現します。